

城門をたてられしに、東北の方にあたり侍るよしを申人ありしに、さらばとて名を筋違橋の門と名づけさせ給ひしのみ、鬼門とは改めさせ給はざりき、徳祖忠秀の御時、御殿つくられしに、東北の方をばかくべきよしを申せしに、笑はせ給ひて、天下は猶一家のごとし、我家の鬼門は蝦夷地にあたるべき、その外の地は禁忌に拘はるに不可及と仰られしよし、つねに御側にありし人の物語りせしと承りぬ、

〔吾妻鏡三十〕文暦二年元嘉正月廿一日乙卯、御願五大堂建立事、相州武州度々巡檢、被撰鎌倉中

之勝地、去年雖被定城太郎甘繩之地、猶不相叶、頗思食煩之處、相當于幕府、鬼門方、有此地、毛利藏人大夫入道西阿領也、依爲御祈禱相應之所、被點之、卽被引地、訖仍今日先總門計被建之、相州武州、大膳權大夫以下數輩被相談、伊賀式部入道光西、清判官季氏等奉行之、

〔吾妻鏡三十八〕寛元五年元寶治五月廿八日庚辰、凡當于關東鬼門方角、被建立五大明王院、賞翫有

驗、知法高僧及陰陽道之類、

〔叡岳要記上〕摠持院供養初度略註

東塔緣起云、中桓武聖主、廢長岡京、遷平安城之時、雲峯峙、帝都之丑寅、嵐徑成、鬼門之凶害、當于時

大師自開伽藍之基跡、聖主深恃叡山之護持、自爾以降、以當山爲皇帝本命道場、

〔看聞日記〕永享五年七月廿四日、抑山門牒狀一覽記之、永享五年七月十九日、根本中堂閉籠衆議

曰、可早爲管領御沙汰被申入公方事、右山王者、帝都衛護之靈神、威風久扇九重、而皇基倍固矣、吾

山者、鬼門安鎮之道場、惠燈普耀萬國、而百寮彌儼矣、

〔大猷院殿御實紀五〕寛永二年十一月、この月中大僧正天海が願により、忍岡の地を賜はりて、伽

藍を創建せしめらる、その旨趣は、むかし桓武天皇、平安城に定鼎のとき、傳教大師、皇城の鬼門叡

山の靈地をいとなみ、帝都の鎮護として、千有餘年、皇祚長久を祈り奉る事、いまにおゐて怠らず、